

くらがの

発行所 倉賀野神社
〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町1263番地
電話 027-346-2158
FAX 027-346-2184
例祭（秋季大祭）10月19日
春季大祭 4月19日
公式ホームページ www.chinju.info/

拝殿上棟から一五〇年

倉賀野神社の拝殿は明治八年（一八七五）十月に上棟になったものです。本殿は、それに先立つ慶応二年（一八六六）に建替え工事を終え遷宮式がおこなわれました。

今からおよそ百五十年前の明治八年に書かれた『普請中入費取調帳』という帳簿のなかに、拝殿の彫刻の記録があり、

「八月二十日 彫師 藤田兼治郎 へ相渡シ」

として、彫物十六口について代金合計九十円を彫師二人に支払ったと書かれています。その彫物リストの一部を見てみると、

一 海老虹梁二丁 代金九円

雲水ウキ彫 ウラ若葉彫こみ

一手挟二丁 代金八円五十銭 松ニタカ などと見えます。

「海老虹梁」は、文字通り海老のように湾曲した大きな梁のことで、二丁（二本）あります。そのものを実際に見ると、海老虹梁の外側の面（表側）が「雲水」、内側



本殿 拝殿



手挟（たばさみ）

海老虹梁（えびこうりょう）↑

倉賀野神社 拝殿

の面（裏側）が「若葉」と、たしかに彫物が記述通りであることがわかります。「手挟」は、向背柱の最上部にあつて、屋根の垂木を下から斜めに支える装飾部材です。見上げると、松葉を背景に羽を大きくひろげたタカの様が見えます。拝殿の工事は上棟後も工事の中断などにより長引き、完成したのは明治十三年のことでした。

藤田兼次郎は、正面向背の彫刻裏面に

「高崎住彫工 石川兼次郎藤原豊重」と刻銘があります。北村喜代松は信州の人で、鬼無里村（現長野市）などに多くの彫刻作品を残していることで知られます。

祭りの日 神前に舞を奉納

神社の祭りでは、神さまの御心を和めさしあげるとして、さまざまな舞が奉納されます。昨年の秋まつりからその情景を紹介しましょう。浦安の舞 昭和天皇の御製「あめつちの神にぞいのる朝なぎの海のごとくに波たため世を」のお歌に合わせ、厳かに舞います。舞姫は小学三年生の頃に入門してはじめて「豊栄舞」を稽古し、やがて高学年になると「浦安の舞」を習得して神前奉納します。そして中学三年春を最後に舞姫を卒業することに。舞の指導は高木千重子禰宜（神職）がおこなっています。



「浦安の舞」（前段の「扇の舞」）。穏やかな海のように世界が平和でありますよう、と祈る。

太々神楽 神前に奉納するのは倉賀野神社附属太々神楽保存会（江原清会長）。十三名の会員の皆さんが日

頃から稽古を重ね、春・秋の大祭に神楽殿で十四座の舞を披露します。保存会には近年若い世代の方々も加入していて、神楽舞や笛、太鼓などの習得に積極的に取り組んでいます。



太々神楽 「天岩戸開きの舞」で天照大御神が舞う場面。舞人の後方には笛・太鼓のお囃子の皆さん。

朝日舞 神職が奉納する舞です。明治天皇の御製「さしのぼる朝日は心なりけり」、「目に見えぬ神に向ひてはちぎるは人の心のまことなりけり」のお歌に合わせて舞います。



「朝日舞」（権禰宜）。空に昇る朝日のように、爽やかな心持ちでありたい、とうたわれている。

ご家庭に 神棚をおまつりしましょう

神様の前に手を合わせて、日々の幸せに感謝いたしましょう。おうちの神棚の中央に「神宮大麻」をおまつりします。神宮大麻は伊勢の神宮より、全国の神社を通してご家庭に頒布されます。「大神宮さま」、また「お伊勢さま」のお神札ともよばれ、年間を通じて社務所でお受けになります。天照大御神をご祖神と仰ぐ皇室と私たち国民を繋ぐお神札といえましょう。

そして地元の氏神さまのお神札をおまつりします。古くから、神宮大麻と氏神さまのお神札の「二そろえ」をあわせて「お正月さま」と尊び、毎年、神棚に新しくおまつりする慣わしがあります。

また特に崇敬して参拝に出向いた神社の神さま（崇敬神社のお神札）も神棚におまつりします。アパートやマンションにお住まいでも簡易式の神棚をおまつりすることができま。詳しくはどうぞ社務所の社務所にご照会ください。社務所電話 027 (346) 2158

境内神社 冠稲荷 初午大祭

令和八年二月十一日（建国記念の日）に初午大祭がおこなわれました。福男福女による福投げ、小学生の豊栄舞、日本神話の紙芝居、湯立神事などに参拝者が集まりました。

〈福投げ特別御奉賛〉

第一屋製パン株式会社

株式会社原田ガトーフェスタハラダ

高崎森永株式会社

倉賀野神社奉賛会のご案内

奉賛会に加入して氏神様の御守護を厚く戴きましよう。

○奉賛会年会費

正会員 二千元 特別会員 一万元

お問合せ ☎027 (346) 2158

編集後記▽神社であるけれど良寛さまとご縁が深い▽先代の高木明宮司の著書『飯塚久敏と良寛』。その中で幕末時に当町出身の文人・飯塚久敏が著した良寛伝『橋物語』を紹介、全文を活字に翻刻している▽最近その現代語訳を試みた方がいる。読み下しにAIも活用したといい、正解ではないと謙遜されるのだが、元の翻刻文は古文のままです。両者を対比しながら良寛さまの生い立ちを読み進めて、時が経つのを忘れた。感謝。（な）

ご挨拶 宮司 高木直明

ことし四月二十九日の祝日「昭和の日」に、政府主催により「昭和一〇〇年記念式典」が挙行されます。激動と復興の昭和の時代を顧み、未来を展望するとして関連するさまざまな施策が企画されているといえます。本神社ではいち早く昨年の秋に「奉祝昭和百年 天明神輿神幸祭」が斎行されました（本紙二面に記事）。一〇〇年の節目のご神幸に地域の安全と繁栄を祈るとともに、昭和天皇の御聖徳に改めて思いを致す機会となりました。さて皇室の御祖神と称えられる伊勢の神宮では、令和十五年秋に第六十三回式年遷宮が挙行されます。すでに準備が始まり、昨年は御用材伐採の諸祭が執り行われました。今年四月には御用材を内外両宮へ搬入する「御木曳初式」がおこなわれます。日本の総氏神さまの二十一年一度の御遷宮です。国民を挙げて奉賛の誠を捧げ、連綿と続いてきた美しい伝統を後世に伝えてまいりましよう。

末尾に、ご報告として。本紙「社報「くらがの」が昭和六十一年の創刊以来、年に二回の発行を重ねてこのたび第八十号を迎えることができました。皆様の御支援に厚く感謝と御礼を申し上げます。

昭和一〇〇年を奉祝し 天明神輿の神幸祭

お神輿の行列が地域を練り歩くお祭りを神幸祭といえます。昨年の秋、臨時大祭「昭和百年 天明御輿神幸祭」がおこなわれました。令和七年は昭和元年から数えてちょうど一〇〇年目、また終戦八〇年にもあたる年でした。昭和天皇の御聖徳に改めて思いをいたすとともに、氏子地域の明るい未来を皆で祈念しました。よう、お神輿が町に練り出しました。

神輿は天明五年（一七八五）に中山道倉賀野宿脇本陣の須賀庄兵衛家が奉納したものです。戦後長く破損していましたが、平成二年（一九九〇）に御代替りを奉祝し神輿庫と併せて大修理がおこなわれ、神幸祭が復活しました。以降、平成十七年の「倉賀野神社御造営七百五十年大祭」、同二十五年の「第六十二回神宮式年遷宮奉祝大祭」など、時代の節目ごと、およそ四〇五年に一度、臨時大祭として町をあげて神幸祭がおこなわれてきました。今回は令和元年五月の「御大典記念神幸祭」以来のこと、コロナ禍を挟んで六年ぶりの神輿のお出ましと

なりました。

また令和七年という年は「天明御輿」が奉納されてからちょうど二四〇年が経過し、奉納年と同じ乙巳年となることから、神社総代会（亀山憲明会長）を中心に祭りの機運が高まりました。

十一月八日の夕刻、日が暮れてから「御霊遷し」の儀がおこなわれました。御本社から神楽殿上に奉安された神輿に至るまでの七〇m余の道筋。そこを御（神様）がお通りになるので道の両側に注連縄を張ります。神社総代会等二十七名が綱垣（御を白布で囲う役目）や松明などの諸役を奉仕しました。

東京・雅楽道友会の楽人が奏でる三管の雅楽に導か



遷御の道筋



遷御を終えて神輿の前に一同が拝礼

れて肅々と遷御がおこなわれ、神輿を担ぐ輿丁や地域氏子の人々が見守るなか、およそ一時間後には無事にお神輿にお遷りいただくことができました。

翌日の九日は朝から霧雨模様。八時三十分には車上渡御の発輿祭がおこなわれ、神輿をトラックに載せて神社から比較的遠方の上正六、桜木、東の三町の御旅所を巡りました。御旅所祭では日の丸が配られ、人々には小旗を振って神輿をお見送りいただきました。

同日午後十二時三十分に行列渡御の発輿祭。猿田彦を先頭に社名旗や「奉祝昭和一〇〇年」の神幸旗、五色の旗などが列立。倉賀野地域の十四町内会から参加した輿丁三十四名、列員十八名を始め、豊栄舞を奉仕する倉賀野小児童七名や随員も参加して、総勢百余名の神輿行列が発せられました。



仲町・倉賀野公民館前の御旅所祭



下町・おもてなし館御旅所の前で

時折小雨の降る中にも旧中山道を東進。仲町（倉賀野公民館）、下町（倉賀野古商家おもてなし館）の二か所の御旅所を経由し、午後三時過ぎに神社に無事に帰還することができました。道筋では上町、仲町の山車囃子が渡御の一行を賑やかに奉送迎。雨天により両御旅所での豊栄舞の奉納を見合わせたのは残念でしたが、小学生の舞姫さんたちには最後までお神輿に同行いただきました。

一連の行事を終えて、神社総代会の亀山会長は「神幸祭は前夜のみたま遷しの儀もあり、二日間に渡る一大行事。奉仕した緊張と感動は忘れ得ない。祭りの伝統を引き継いで未来につないでいくのが私たち総代の役目」と語っています。ご協力をいただいた皆様方に心より感謝と御礼を申し上げます。

「祓詞」の書写会

ことし二月、祓詞の書写会がおこなわれました。これまでも何回か神社でおこなわれている催しです。祓詞とは、神事の冒頭の「修祓」という儀式の中で、お祓いをつかさどる神々の前に申し上げる短い祝詞のこと、その内容は人々の罪・穢れをお祓いして取り除き清めてください、と神々にお願ひするものです。

今回は祓詞を書写することに合わせ、声に出して読み上げることにも重点が置かれました。以下は祓詞の音読の一例です。

「掛かまくも畏ぎ、伊那那岐の大神、筑紫の日向の、橘の小戸の阿波岐原に、祓へ給ひ給ひし時に、生り坐せる祓へ戸の大神たち、諸々の禍事・罪・穢れあらむをば、祓へ給ひ清め給へと、白すことを聞きし召せと、恐み恐みも白す」



一同が御社殿の中で祓詞を奉唱した。

祓詞は「宣命書き」といって実際は送り仮名も含めてすべてが漢字で書かれており、参加者は音読の奉唱に先立ち、時間をかけてその書写に取り組みました。参集殿のなかに静かで清らかな時間が流れていました。

なお社務所ではインスタグラムで書写会などの行事予定を随時ご案内しています。



公式社 Instagram

雪の御本社

二月八日の朝、めずらしく境内にうつつらと雪が。降る雪で手を清める作法を「雪手水」といいます。あたり一面が清められてしんと静まり返っていました。



上町の山車
上町一区、四区の四つの町内会が合同で毎年「子どもの日」に山車を巡行している。ふだんは倉賀野神社境内の山車倉に格納されている。



令和7年5月5日

ふるさとめぐり 倉賀野町の山車

下町の山車
中山道沿いの高崎古商家おもてなし館の前で舵をきり、いま敷地内に入る場面。このほど下町諏訪神社境内に新しい山車倉が竣工した。



令和7年10月5日

仲町の山車
倉賀野神社の秋季例大祭の日に行が参詣し、南大鳥居の参道をくぐる。仲町の山車倉建設四十周年記念に巡行がおこなわれた。



令和7年10月19日

南町の山車
この日は「勤労感謝の日」そして新嘗祭の日。高崎市人権プラザ前をこれから出発する。子供たちの囃子が町内に元気に響き渡った。



令和7年11月23日